

3. 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

此花区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和1年6月27日
活動開始日	平成30年12月13日

活動テーマ(目標)	連合振興町会単位での認知症に関する啓発・研修の実施
区認知症施策推進会議等から見えてきた課題	地域における認知症高齢者のケアの推進のため、小地域単位で認知症に関する啓発や施策推進に係る周知活動を実施する必要がある。
活動対象	此花区内の振興町会の役員等
連携・協働する関係機関	医師会・社会福祉協議会・区・包括・訪問看護ステーション連絡会等
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組み ・認知症強化型包括の取り組み、後方支援(企画段階含む) 	<p>2018年度より関係機関にて打ち合わせを行い、区社会福祉協議会会長への協力依頼、及び連合振興町会会長会にて事業の説明及び協力依頼を行い、結果モデル的に島屋地域にて勉強会を開催することとなった。</p> <p>島屋地域連合振興町会会長にて地域の役員等への呼び掛けを行ってもらい、上記研修を開催。</p> <p>対象者：島屋地域の町会長・民生員児童委員・見守り隊(計27名)</p> <p>日時：令和元年5月23日 19時～20時</p> <p>内容：「これだけは知っておこう“認知症”」</p> <p>講師：此花区医師会副会長 八幡 暁直 先生</p> <p>一時間という時間設定の中、アルツハイマー型認知症を主にその特徴や対応方法について講義、及び他の認知症については別添資料を配布。その後質疑応答の時間を設け終了した。</p>
感想・成果等(根拠となる資料等があれば添付)	非常に分かりやすい説明であり、参加者の理解を深める事ができた。また参加者からの質問も多数あり、“我が事”として捉えていただけたように感じる。連合振興町会会長からも非常にためになる研修であったとお言葉をいただいた。
今後の課題	同地域において第二回目の研修を実施していくが、さらに参加者を増やしていく必要がある。グループワーク形式にてより参加者の満足度を高めていく事を検討中。
区認知症施策推進会議開催日	今後の取り組み継続に向けてのコメント(区認知症施策推進会議での意見等) 同地域における第二回目の勉強会開催に向けて各関係機関への協力を依頼。 また別地域での開催に向けて関係機関で打ち合わせを行っていく。
令和1年6月13日	

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

天王寺区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和 元年 11月8日
活動開始日	令和元年4月1日～9月30日

活動テーマ (目標)	若年性認知症当事者の集いの場「ぶらっとピンポン」の活動定着に向けた後方支援
区認知症施策推進会議等から見えてきた課題	新たな社会資源の為、存在が認知されていない
活動対象	若年性認知症当事者の集いの場「ぶらっとピンポン」への参加
連携・協働する関係機関	天王寺区ゆうあいオレンジチーム 認知症地域支援推進員
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取り組み ・ 認知症強化型包括の取り組み、後方支援 (企画段階含む) 	<p>定期開催「ぶらっとピンポン」への参加支援</p> <p>日時・・・毎月第2木曜日、10:00～15:00</p> <p>場所・・・みんなの家 ぶらっと</p> <p><u>平成31年4月11日(木)</u></p> <p>〈参加者〉当事者 : 6名 家族 : 2名 ボランティア : 2名 みんと会 : 4名 オレンジチーム : 2名 包括 : 1名</p> <p>卓球、麻雀などそれぞれ好きな活動を選択して参加され、活動に寄り添う。</p> <p><u>令和元年5月9日(木)</u></p> <p>〈参加者〉当事者 : 4名 家族 : 2名 ボランティア : 3名 みんと会 : 4名 オレンジチーム : 1名 包括 : 2名</p> <p>卓球、麻雀、トランプ等の活動に別れて参加してもらう。当事者との卓球では一旦卓球をすると、昼食の時間になったことが分からない程集中して対戦されていた。夫は麻雀を楽しんでいた。当事者と活動に参加する。</p> <p><u>令和元年6月13日(木)</u></p> <p>〈参加者〉当事者 : 6名 家族 : 2名 ボランティア : 4名 みんと会 : 3名 オレンジチーム : 1名 包括 : 1名</p> <p>卓球、麻雀、トランプ、投げ輪等の活動に別れて参加してもらう。コーヒータイムでは、昨年当事者が中心となって作った石狩鍋の話で盛り上がる。当事者の家族が集いに参加する楽しみは昼食と言われ、本日もキーマカレーのレシピを聞いていた。当事者と活動に参加する。</p> <p><u>令和元年7月11日(木)</u></p> <p>〈参加者〉当事者 : 6名 家族 : 2名 ボランティア : 4名 みんと会 : 3名 地域の高齢者 : 1名 オレンジチーム : 1名 包括 : 1名</p> <p>本日より、地域の認知症高齢者1名参加。自己紹介では、他の参加者にも自己紹介をしてもらう。その後、それぞれ麻雀や卓球など活動ごとに別れ参加してもらう。坊主めぐりでは、会話のキャッチボールができない2名にはゲームを楽しむというより人とのふれあいを楽しんでもえるよう、工夫しながらスタッフで協力して支援する。</p>

	<p>令和元年8月8日(木)</p> <p>〈参加者〉 当事者 : 4名 家族 : 1名 ボランティア : 1名 みんと会 : 4名 地域の高齢者 : 1名 オレンジチーム : 1名 包括 : 1名</p> <p>本日も活動ごとに分かれて楽しまれる。麻雀では何時もは当事者2人、ボランティア1人、当事者家族1人で対戦されるが、本日は当事者家族がお休みされ、フォローに入る。当事者とボランティアの方が3者互角な戦いで集中しながらも和やかに過ごされる。</p> <p>令和元年9月12日(木)</p> <p>〈参加者〉 当事者 : 5名 家族 : 1名 ボランティア : 6名 みんと会 : 3名 地域の高齢者 : 1名 オレンジチーム : 2名 包括 : 1名</p> <p>本日、当事者家族より介護サービスの相談を受ける。既に担当ケアマネジャーがおり、小規模多機能型居宅介護の説明を受けたが、サービス内容が分からないとのこと。現在、週1回デイサービスを利用しているが、介護負担で辛くなってきたと家族。話を聞きながら、小規模多機能型居宅介護を含め介護保険について説明を行う。今年になって徘徊で探し回ることが数回あり、家族介護に限界を感じていると家族。無理をしなくていいように担当ケアマネジャーと相談してもらうよう助言する。</p> <p>午後は、歌を歌うイベントに参加者全員参加される。</p>
<p>感想・成果等 (根拠となる資料等があれば添付)</p>	<p>当事者が7月を最後に1名来られなくなった。移動・排泄・食事・入浴等生活全般に介助の必要な人だった。又当事者の1名は、14時まで勤務した後参加されており仕事を延長したいと希望している。</p> <p>今後、参加者が減少する傾向が想定されており、周知や新規参加者をどう募るのか検討が必要。</p> <p>参加されている人は、回数を重ねるごとに居場所として安心して参加されている様な表情をしている。自分の楽しめることを時に集中、時に和やかに過ごされている。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>麻雀のボランティアは参加してくれているが、和やかな場作りとして、当事者への会話や対応ができるボランティアは不足している。</p> <p>少しずつ介助の必要な当事者が増えてきておりその対応をどうするか、また来所されなくなり当事者の利用人数の減少に対しどうするのか、検討が必要だと思われる。</p>
<p>区認知症施策推進会議開催日</p> <p>平成 年 月 日</p>	<p>今後の取組み継続に向けてのコメント(区認知症施策推進会議での意見等)</p>

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

天王寺区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和2年 4月 6日
活動開始日	令和元年10月1日～2年3月31日

活動テーマ (目標)	若年性認知症当事者の集いの場「ぶらっとピンポン」の活動定着に向けた後方支援 (下半期)
区認知症施策推進会議等から見えてきた課題	社会資源としての集いの場の認知不足
活動対象	1、若年性認知症当事者の集いの場「ぶらっとピンポン」への参加 2、“ぶらっと”で新規の認知症カフェ立ち上げの打ち合わせに参加
連携・協働する関係機関	天王寺区ゆうあいオレンジチーム 認知症地域支援推進員
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取り組み ・ 認知症強化型包括の取り組み、後方支援 (企画段階含む) 	<p>1、定期開催「ぶらっとピンポン」への参加支援 日時・・・毎月第2木曜日、10:00～15:00 場所・・・みんな家 ぶらっと 令和元年10月10日(木)</p> <p>〈参加者〉当事者 : 4名 家族 : 1名 地域の高齢者 : 1名 ボランティア : 2名 みんと会 : 3名 城東区オレンジチーム : 1名 天王寺区オレンジチーム : 2名、 包括 : 1名</p> <p>城東区オレンジチームの支援で新規の当事者参加。今まで参加していた当事者とその家族が、介護サービスの優先利用や施設利用の検討の為、2組不参加となる。当事者は麻雀や卓球、百人一首に分かれて行う。当事者の1人はゲームが理解できなくなってきた。トイレの支援も必要になっている状況。</p> <p>令和元年11月14日(木) 参加できず</p> <p>令和元年12月12日(木)</p> <p>〈参加者〉当事者 : 3名 ボランティア : 2名 みんと会 : 5名 包括 : 1名</p> <p>参加者で午前中より石狩鍋の準備を行う。北海道出身の当事者がおり支援者と一緒に事前に具材を購入している。昨年も鍋を作っており定例行事になりつつある。全員で役割分担して鍋を作り上げ、シメのうどんまでおかわりをしていた。</p> <p>令和2年1月16日(木)</p> <p>〈参加者〉当事者 : 5名 家族 : 1名 地域の高齢者 : 1名 ボランティア : 1名 みんと会 : 3名 オレンジチーム : 1名 包括 : 1名</p>

午前中は餅つきを行い、全員で思い通りの形に丸める。きな粉やしょう油など味付けを変え、雑煮やぜんざいも作ってもらい、全員で食する。

令和2年2月13日(木)

〈参加者〉当事者 : 5名 地域の高齢者 : 1名 ボランティア : 1名
みんと会 : 5名 オレンジチーム : 1名 包括 : 1名

午前中より、たこ焼きパーティーの準備を行う。スタッフが切った具材を、当事者や地域の高齢者で作りに上げる。何時もは落ち着きのない当事者が、次々焼けるたこ焼きに集中して食べている。

令和2年3月12日(木)

イチゴ狩りの予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の為中止となる。

2、認知症カフェ「てんとうむし ぷらっと」開催に向けての打ち合せに参加
開催日：令和元年11月14日(木) 16:00~17:30

参加者：みんと会(主催) 5名 介護保険事業所 2名
中央区オレンジチーム 2名 中央区社会福祉協議会 1名
天王寺区オレンジチーム1名 天王寺区地域包括支援センター1名

(1) 中央区で行われた「てんとうむしカフェ」の振り返り。

カフェ参加者による意見交流を行う。設営、開催時間、タイムスケジュール、支援者の段取りや支援方法など、参加者が感じたことを話し合う。

中央区の認知症カフェの開催を、区内で場所を移動させて開催する案が出る。地域の会館を借りての開催や、施設の1階フロアの喫茶コーナーを利用しての開催など、今後展開していく運びとなる。

(2) 天王寺区で開催する「てんとうむし ぷらっと」の開催について

「野菜マルシェ&カフェ」として、千早赤阪村産の米や野菜などを軒下に並べて販売する。建物内では、手作りジュースなど喫茶で参加者交流を行う。認知症の当事者にはその手伝いをしてもらい予定で、其々の当事者には支援者が付いてフォローする。中央区で行った「てんとうむしカフェ」のノウハウを活かし、天王寺区で開催。場所がら道を挟めば中央区であり、区を越えて、参加してもらえるよう地域に案内をしていく。

- ・天王寺区オレンジチームには認知症ナビに掲載
- ・認知症カフェを案内

**感想・成果等
(根拠となる資料等が
あれば添付)**

若年性認知症当事者の集いの場「ぷらっとピンポン」では、認知症の進行に伴い、集いの場での介護負担が出てきている。その為、1年以上参加してきた人が欠席となるケースも出てきた。同行する家族の負担が大きくなっており、介護保険のサービス利用となっている。

<p>今後の課題</p>	<p>利用者の減少に伴い、新規参加者を勧奨する取り組みが必要。 周知・勧奨に向けて、認知症地域支援推進員と検討して行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぷらっとピンポン」の周知 ・他区の認知症地域支援推進員との連携
<p>区認知症施策推進会議開催日</p>	<p>今後の取組み継続に向けてのコメント（区認知症施策推進会議での意見等）</p>
<p>平成 年 月 日</p>	

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

生野区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和 1年 9月28日
活動開始日	令和 1年 6月21日

活動テーマ (目標)	西生野連合町会未加入者調べと実態把握 (関係機関連携による認知症課題発見の取組)
区認知症施策推進会議等から見えてきた課題	高齢者の認知症や若年性認知症で支援困難なケースが増えている。
活動対象	西生野地域第六振興町会にお住まいの方
連携・協働する関係機関	西生野地域民生委員長 (西生野連合第六振興町会民生委員)、おかちやまオレンジチーム、生野区社会福祉協議会、生野区見守り相談室、生野東ランチ
・ 具体的な取り組み ・ 認知症強化型包括の取り組み、後方支援 (企画段階含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西生野連合第六振興町会の世帯地図に、生野区地域包括支援センター、生野区見守り相談室、福祉コーディネーター、生野東ランチ、民生委員が把握・支援している世帯を色分けして落とし込む。どこにもつながっていない世帯を明らかにし、その中で何らかの支援が必要な世帯はないか関係者で共有する。 ・ 民生委員と共に各世帯を訪問し、相談窓口一覧を配付することで、世帯の様子を把握するとともに、支援が必要な世帯の把握を行う。 ・ 関係機関の会議を計9回開催し、丁寧に議論、情報共有しながら取り組みを進めた。
感想・成果等 (根拠となる資料等があれば添付)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の必要な高齢者の把握ができた。(認知症疑いの要支援者もあり) ・ 空き家の実態把握ができた。 ・ 西生野地域で行われている地域行事を案内することができた。
今後の課題	・ 他の町会でも実施できるようアプローチする。
区認知症施策推進会議開催日	今後の取組み継続に向けてのコメント (区認知症施策推進会議での意見等)
平成 年 月 日	

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

旭区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和2年3月7日
活動開始日	令和2年2月14日

活動テーマ (目標)	認知症に対する理解を深め、多職種連携の強化を図る。
区認知症施策推進会議等から見えてきた課題	認知症を起因とする、支援困難事例が多くみられるため支援者側の連携の強化と、認知症対応能力向上が求められている。
活動対象	旭区内の訪問介護員・訪問看護師・介護支援専門員
連携・協働する関係機関	旭区在宅医療・介護連携相談支援室・旭区東部地域包括支援センター
・具体的な取り組み ・認知症強化型包括の取り組み、後方支援 (企画段階含む)	<p><研修会の企画立案・取組み内容について></p> <p>①支援対象者の異変時等における【気づく視点】を元に連携する動きをイメージしてもらい、介護支援専門員・訪問介護支援員・訪問看護師の連携強化を図る。</p> <p>②健康状況・認知症状等の疾患があったとしても、住み慣れた地域で暮らせる地域包括ケアシステムの構築を図る。</p> <p>この2点を目的として、訪問介護員向けに事前アンケート行う、アンケートより見えてきた課題含め、連携しづらい現状等がないか連携に向けての課題をさぐる。当日は【気づきのシート】を元に事例検討を行う。</p>
感想・成果等 (根拠となる資料等があれば添付)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの専門職の課せられた役割の中からの視点を元に意見交換を行えた。抱え込まず、気軽に報告することが利用者を支えるチームケアということが理解できた。 次年度に向けての認知症対応能力向上に向けた勉強会を行うためのアンケートを行った。(別紙資料参照) アンケート集計の結果として、認知症の研修内容の希望として同率1位レビー小体型認知症・1位意味性認知症を学びたいという意見が多く。アルツハイマー型認知症が2位 次いで血管性認知症・前頭側頭型認知症という順であった。精神疾患については統合失調症が上がっていた。次年度についても多職種連携強化とともに、認知症対応能力(応用編)として介護支援専門員向けの8050問題について研修会が必要と思われた。
今後の課題	顔の見える関係性の中で、定期的な勉強会の開催をすることにより、旭区内の介護支援専門員の動き等が理解できるよう連携を深めていく。
区認知症施策推進会議開催日	今後の取組み継続に向けてのコメント(区認知症施策推進会議での意見等) 新型コロナウイルスによる活動自粛のため会議開催できず、次年度報告を行う。
令和 年 月 日	

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

東住吉区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和 2年 3月 31日

活動テーマ	幅広い世代への周知・啓発
区認知症施策推進会議や関係機関の取組実績、地域分析等から見えてきた課題	<p>認知症は、本人が病識を持ちにくい疾患であり、家族や地域など周囲が早期に気づき、適切な相談機関につながる事が大切である。しかし、早期相談の認識に大きな差があり、重症化してからの相談になるケースも少なくない。</p> <p>平成30年度は、大阪市認知症ナビ・アプリの周知や通知機能の利用、簡易版認知症ケアパスを作成し、区報などでしこへの掲載、認知症区民フォーラムの拡大周知、各支援機関の周知・啓発内容の調査集約等に取り組んだ結果、インターネットを経由した現役世代からの相談増加やフォーラムへの現役世代参加増加など一定の効果がみられた。</p> <p>しかし、各関係機関の取り組みに統一性がなく、区全体の取り組みがわかりにくいことや直接現役世代へ働きかける機会が少ないため、効果的な周知にはいたっていない。</p>
対象	現役世代（40～60代）を含む全世代
地域特性 (分析・統計情報等の資料があれば添付)	<p>①令和元年度 区民フォーラムのアンケート集計より 参加者170名中、アンケート回収112名。そのうち、7割が区民、70～80代の参加者が大半を占めていた。今回の周知方法としては既存の区報やチラシ配布以外に、関係機関のホームページや区のFacebookを活用はしたが、若い世代の参加にはつながらなかった。</p> <p>②令和元年度 認知症初期集中支援事業 事業報告書より 支援困難事例の傾向としては、キーパーソン不在、経済課題、支援拒否、行動・心理症状の増悪が主となる課題ですが、独居女性は物盗られ妄想、独居男性は金銭管理、夫婦世帯は配偶者の抱え込み、未婚の子と同居世帯は子への支援が主となり、全般に本人・家族の障がい受容が進まないことが要因となっていることがわかった。</p>
活動目標	各世代の特性に沿った目的と効果的な手段で、区全体が一体的、計画的に周知・啓発に取り組む
連携・協働する関係機関	認知症疾患医療センター・東住吉区三師会・東住吉区役所 保健福祉センター・東住吉区地域包括支援センター・東住吉北地域包括支援センター・中野地域包括支援センター・矢田地域包括支援センター・白鷺ランチ・矢田東ランチ・矢田西ランチ・大阪市東住吉区社会福祉協議会・東住吉オレンジチーム

<p>・具体的な取り組み</p> <p>・認知症強化型包括の取り組み、後方支援</p>	<p>①見守りガイドの作成 地域の見守り活動をしている方を対象とした冊子を作成。ガイドの中に認知症の項目を掲載。</p> <p>②区民フォーラム 「認知症になっても大丈夫～みんなの力で認知症を予防する・気づく・見守る」をテーマに開催。170名の参加があった。区民フォーラム参加周知として、区報や関係機関のホームページ、区のFacebookに掲載など行った。</p> <p>③効果的な周知方法の検討 歯科医師会ホームページに「認知症の手引き」のリンク 医師会ホームページに専門医の紹介を掲載など 催しの案内にQRコードを掲載し、メールでの申し込みを可能とした</p>
<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付)</p>	<p>①見守りガイドの作成 ②区民フォーラムの開催 ③関係機関のホームページに催しや認知症に関するリンクの協力</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①見守りガイドの活用方法の周知、配布後の評価など ②区民フォーラムの内容検討（集客を見込める内容や方法に変更することも検討）専門職は専門職対象の研修への参加を促す ③世代に応じた効果的な周知 ・インターネット、SNS、動画配信などの活用の検討 ・若い世代の対象を50歳～60歳代にしぼる ④ケアパスの普及 認知症ケアが、医療と介護の両立が必要であることを伝える ⑤当事者が参加できる取り組みとして「注文を間違える料理店」など</p>
<p>区認知症施策推進会議開催日</p> <p>令和2年3月10日 意見照会として実施</p>	<p>今後の取組み継続に向けてのコメント（区認知症施策推進会議での意見等）</p> <p>①フォーラム等への参加者を増やす取り組みでは、医療・介護に従事していないと、催しが開催される事自体、ポスターや掲示物など目に触れる事が少ないと思いました。</p> <p>②映画なら集客ができることも多いようですが、やはり事例やドキュメントのようなものに関心があるのではと感じました。</p> <p>③インターネットや動画配信による啓発を、子どもたちの教材に使えると良いかもしれません。</p> <p>④高齢者福祉月間・世界アルツハイマー月間として区民だより9月号に特集を掲載予定ですので、ツールの一つとして活用いただきたいです。</p> <p>⑤桑津では地活の部会と一緒に動く事になりそうです。</p> <p>⑥地域の仕組みを活用しきれていない状況なので、ガイド等の活用は有益と思いますが、地域の仕組みを活用する上では区社協や区から全区的な提案を望む所です。</p>

3-(2) 認知症の課題に対する地域の取り組みの後方支援にかかる報告書

西成区認知症強化型地域包括支援センター	
報告書作成日	令和元年8月1日

活動テーマ	ぼけますから、よろしくお願ひします。上映会
区認知症施策推進会議や関係機関の取組実績、地域分析等から見えてきた課題	高齢者、家族にとって予防的に認知症の知識を得る機会が少なく、研修会という形式となると気軽に知識を得ることへの抵抗感を感じる方もいる。認知症をテーマとした上映会を行うことにより、認知症の理解、諸制度の予防的な利用など映画を通じて啓発を行うことにより地域住民に広く対応できる。
対象	西成区民、関係機関、行政、相談支援機関、介護事業者
地域特性 (分析・統計情報等の資料があれば添付)	独居高齢者、他市、他区からの転居などが多く、地域とのつながりが少ない方が多くいる。高齢化率も大阪市内で一番高い。
活動目標	区民に広く認知症についての啓発を行い、認知症になっても暮らしやすい西成区のイメージを持てるようになる。
連携・協働する関係機関	区役所、『ほっと・ネット西成』連絡会、西成区内地域包括支援センター、民生委員協議会、ネットワーク委員会、警察、消防、3師会、鉄道会社（地下鉄、南海）郵便局、連合振興町会
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組み ・認知症強化型包括の取り組み、後方支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域課題検討会議にて上映会開催までの対応について協議 4月22日、5月24日、6月28日、7月23日 広報：『ほっと・ネット西成』連絡会にて行われる講演会の広報先を活用し、広報を行うことが、関係機関との連携につながるように、生活者の身近な場所へポスターを張っていただくように協力依頼。（上記連携組織 ポスター 900枚 チラシ 7000枚配布） 広報誌わが街にしなり（区政便り）にて掲載。当日までに多くの問い合わせあり。 当日：410名の参加 開場内に地域包括支援センター等の啓発コーナーを設け各関係機関や、居場所、認知症カフェの啓発を行う。 アンケート実施 回収227件 別紙資料 当日天候によりトークショーの開催はできなかったが、次年度改めて講演会を計画する予定。
成果 (根拠となる資料等があれば添付)	・アンケート結果にて認知症に対する理解が深まり、当事者やその家族への対応について具体的なことなどへの気づきなどを得たと多数意見あり。また、上映会で得た気づきにて継続して認知症について理解を深めていきたいなどの意欲につながる意見もあり。年度末に行われる講演会にもつながる意見があり。
今後の課題	・継続的に認知症に対して気軽に集える場、情報を得る場が必要。

区認知症施策推進会議開催日	今後の取組み継続に向けてのコメント（区認知症施策推進会議での意見等） 今後とも地域住民が気軽に認知症のことを知る機会を増やしてもらい、継続した啓発活動を行っていただきたい。
令和2年2月28日	